

環境報告書 2011

DMW CORPORATION



編集方針

本環境報告書は、当社の環境保全活動、社会貢献活動、事業活動に伴う環境負荷実績などについてステークホルダーの皆様にご報告し、ご理解いただくことを目的に発行しております。

【対象期間】

2010年度
(2010年4月1日～2011年3月31日)

【対象範囲】

株式会社 電業社機械製作所

なお、環境会計、環境負荷実績データ集計範囲等は、ISO14001の認証を取得している三島事業所のみです。

【参考にしたガイドライン】

本環境報告書の作成にあたっては、環境省「環境報告書ガイドライン(2007年度版)」を参考にしました。

【発行日】

2011年11月 (次回発行予定 2012年11月)

【お問い合わせ先】

(株)電業社機械製作所 三島事業所 環境管理事務局
TEL 055-975-8228
FAX 055-975-9988
〒411-8560
静岡県三島市三好町3番27号

～ 目次 ～

▶ 編集方針／目次	1
▶ トップメッセージ	2
▶ 会社概要	3
▶ 三島事業所の概要	4
▶ 事業活動と環境負荷	5
▶ 環境マネジメント	6
▶ 環境負荷低減への取り組み	8
▶ 取り組みの実績	9
▶ 環境会計	11
▶ 安全・衛生・防災	12
▶ 社会貢献	13
▶ 環境に配慮した新技術と製品	14



～未来を切り拓くために～



代表取締役社長
柳瀬 宜浩

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方から関東地方にかけての広範囲の地域に、これまでにない甚大な被害をもたらしました。被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地が一刻も早く復旧、復興できますよう支援してまいります。

電業社機械製作所は昨年、創業100周年を迎え、新たな100年に向けてのスタートを切りました。当社の属する風水力機械産業界の事業環境は依然として厳しく、先行きが見えない状況が続いておりますが、このような状況下において企業にとって重要なのは、私たち全従業員が現状を打破する強い意志を持ち、チャレンジして行くことだと考えます。

昨年当社は、10年後を俯瞰して、「New DMW Planning」(NDP)を40歳前後の方を中心に立ち上げました。このプロジェクトの目的は、全世界を視野に入れ当社の進むべき方向

を構築していくことです。また、全従業員一人一人がそれぞれに目標と意欲を持って仕事に取り組む活性化・モチベーション向上活動もスタートさせました。NDPは企業組織としての活力向上と、当社が進むべき方向を明確にすることであり、モチベーション向上活動は、当社で働く個々の働き甲斐と活力の向上・強化を目指します。負の面に拘泥したままでは未来を切り拓くことはできません。負の面を無視するのではなく客観的に認識した上で、良い面・プラス面を見える化し、拡大・強化していきます。これらの活動が、今年はいささか小さい芽であっても数年後には当社と従業員を支える大きな礎になると信じております。

この環境報告書は2010年度の環境保全活動の概要をまとめたものです。本報告書をご一読いただき、当社の取り組みにご理解をいただくとともに、皆様方の忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

経営理念

コアコンセプト 技術創生

電業社は、『物作りの技術を中心とした企業活動』を行い、将来とも発展することを目指します。

《社会貢献》

電業社は、独自の技術を駆使してより良い製品を創り、社会の進歩に寄与します。

《人間中心》

電業社は、株主・社員はもとより、地域や社会・世界の人々のために活動します。

《環境貢献》

電業社は、自然と共存する技術を目指し、地球環境の向上に寄与します。

《人材育成》

電業社は、社員の自己啓発を支援し、自らの役割と価値を創造しう人材の育成に努めます。

電業社行動指針(要旨抜粋)

◆社会ルールの理解と遵守

ビジネス社会のルールの遵守は全てに優先し、違法・脱法行為は絶対に行ってはならない。また、社会正義及び社会的責任の観点から市民社会の秩序や安全に影響を与えるすべての反社会的勢力とは一切関係を持たない。

◆ステークホルダーとのありかた

顧客、株主、代理店・協会社、取引先、社員、地域社会等に代表されるステークホルダーとは良きパートナーとしての認識にたち、PR、IR等の活動を通じて情報公開に努め、公正かつ誠実な信頼関係の構築と維持に努める。

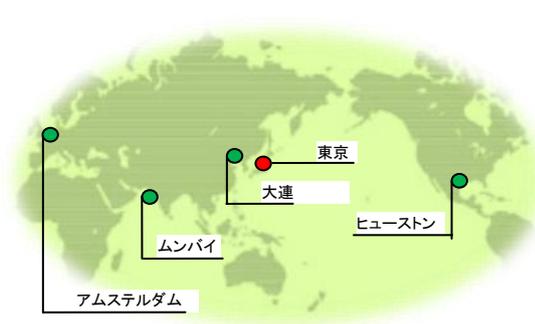
◆環境への取組み

環境を常に考えた事業活動の展開を根幹とし、よい環境づくりに役立つ技術の研究、開発、生産及び製品提供を行う。生産過程の環境負荷を低減し、自然との調和を図り、健康的な社会環境づくりに積極的に取り組む。

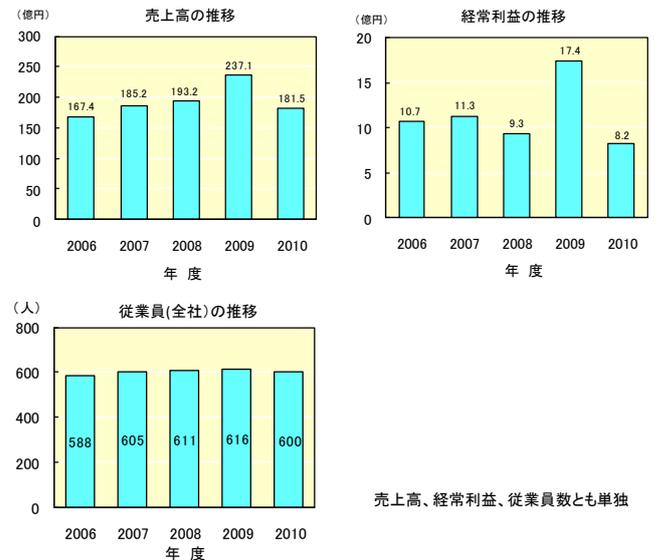
◆企業市民としての役割

電業社グループは良き企業市民として社会との調和を図り、貢献することが期待されていることを認識する。行政や地域が行う活動には積極的に参加し、地域とともに活動できる場の設定に努める。

会社概要



商号 株式会社 電業社機械製作所
 (DMW CORPORATION)
創業 明治43年9月(1910年9月)
本社 〒143-8558
 東京都大田区大森北1丁目5番1号
 TEL 03-3298-5111
 ホームページアドレス
<http://www.dmw.co.jp>
資本金 8億1千万円
主な事業内容 (1) 風水力機械の製造、販売
 (2) 廃水処理装置
 及び廃棄物処理装置の製造、販売
 (3) 配電盤・電気計装制御装置
 及び電気通信制御装置の製造、販売
事業所 三島事業所
支店・営業所 東北支店、関東支店、静岡支店、名古屋支店
 大阪支店、中国支店、九州支店、
 北海道営業所、新潟営業所、横浜営業所
 四国営業所、沖縄営業所
海外事務所 インド(ムンバイ)、米国(ヒューストン)、
 中国(大連)、オランダ(アムステルダム)
関連会社 電業社工事株式会社、
 株式会社エコアドバンス



トピックス2010

👉 サウジアラビア向け高圧多段ポンプの納入

当社は近年、石油開発・石油化学プラント向けを中心とした海外市場展開を積極的に進めており、その中でも付加価値の高い高圧多段ポンプの受注に注力してきました。その結果これまでの海外納入実績や製品の品質が評価され、技術・品質基準が世界一厳しいといわれるサウジアラビア企業からポンプの指定調達先として登録を受けました。写真の高圧多段ポンプは、日産90万バレル(約140000キロリットル)の原油を生産・処理するプラント施設内の火力発電設備に納入するもので、火力発電用蒸気タービンに蒸気を送り出すボイラへ給水するために使用されます。



👉 インド市場への新たな取り組み

当社は、2010年7月に Far East Offshore Heavy Engineering Pvt.Ltd.社(略称:FOH社)と戦略提携契約を締結し、共同でムンバイ近郊に当社機器のメンテナンスショップを建設中です。インド市場は成長が著しく、新規需要のみならず、過去に当社が納入した機器の保守管理・交換需要も期待されます。当社はすでにインド、中国、オランダ、米国に拠点を保有していますが、本格的な海外メンテナンス拠点はこれが初めてとなります。FOH社との戦略提携を通じて、インドはもとより周辺国においても需要の掘り起こしを行い、市場開拓の新たな取り組みを進めています。

三島事業所の概要

(株)電業社機械製作所は1910年(明治43年)に発電機用水車の製造を始めて以来、今日までの100年間、一貫して風水力機械の開発、製造を手掛け、風水力機械メーカーとして多くの実績と技術力を蓄積してまいりました。

三島事業所は1940年(昭和15年)に、霊峰富士を仰ぐ水の都三島市に設立され、ポンプ、送風機、バルブ等の風水力機械を中心とした産業機械の研究開発、設計、製造を行っています。これらの製品は上下水道、電力、ガス、鉄鋼、セメント、石油精製、石油化学、水質改善等の公共事業ならびに諸工業、国内、国外の広い分野で活躍しています。

三島事業所は恵まれた環境のもと、伝統ある高度の技術を生かし、環境に配慮した製品造りとお客様のニーズに対応したより良い製品を送り出して、社会に貢献したいと考えております。



本館



工場

三島事業所	〒411-8560 静岡県三島市三好町3番27号
設立	昭和15年9月
敷地面積	111,168 m ²
建屋面積	29,952 m ²
従業員数	445人

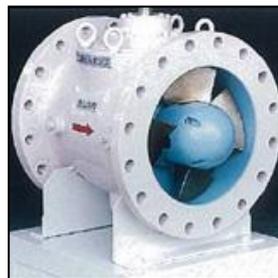
—主な製品—

ポンプ	送風機	バルブ
渦巻ポンプ 軸流ポンプ 斜流ポンプ チューブラポンプ スクリーポンプ 水中モータポンプ	ターボファン 翼形ファン ラジアルファン 軸流ファン ジェットファン ターボブロウ	ロートバルブ ハウエルバンガーバルブ 逆止弁
広域管理システム	環境関連機器	その他
遠方監視システム 運転支援装置 監視用電話通報装置 換気制御盤	回転円板水処理装置 有機性廃棄物処理設備 水中排砂ロボット	除塵機 ゲート設備

有機性廃棄物処理装置、水中排砂ロボットは関連会社の製品です。



横軸両吸込渦巻ポンプ
両吸込の羽根車を持つ水平割り渦巻ポンプです。吸込み性能が良く、また水平割構造のため保守点検が容易です。



二重反転式軸流ポンプ《アクロ》
羽根車が同一芯上に2枚配置され、互いに逆方向に回転するポンプです。逆方向に回転することで、羽根車後方の流れのねじれを解消できます。



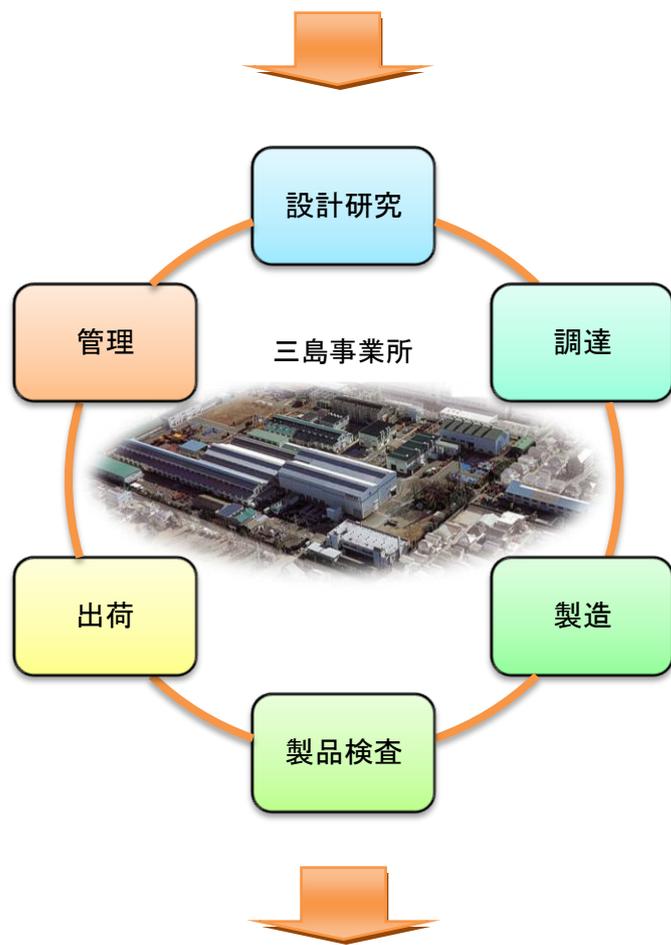
軸流ファン
大容量対応機種で、換気所に設置され、トンネル内に新鮮な外気を送風、またトンネル内の汚染空気を排風します。特に長大トンネルや都市型トンネル換気設備の中心として、全国各地で活躍しています。



ハウエルバンガーバルブ
ダム・貯水池の余水放流・管理放流などに使用されているバルブです。落差の高低やバルブの開度にかかわらず、放流時の水の勢いを弱め、周辺の環境を守ります。

インプット 2010年度

資材	電力 40164GJ 燃料 2139GJ 都市ガス 429GJ LPガス 86GJ	水資源 9.7万m ³
----	--	------------------------



アウトプット

製品	CO ₂ 排出量 1476 t VOC排出量 16.8 t (PRTR対象物質)	副産物※ 332 t
----	---	------------

※副産物は廃棄物と有価物の合計

EMS組織体制

三島事業所では、環境管理統括者を環境マネジメントに関する最高責任者とし、環境管理責任者を環境マネジメントシステム(EMS)の実行責任者とするEMS組織体制を確立し、それぞれの役割、責任、権限を定めて活動を推進しています。

組織の基盤となる活動部門は、事業活動に伴う環境側面を考慮して10の単位部門に分け、各単位部門ごとに活動しています。また、エネルギー、廃棄物リサイクル、環境影響、騒音振動に関する4つの専門部会を設置し、それぞれの部会ごとに環境負荷低減のための調査活動を行っています。

毎月開催する環境管理委員会では、環境管理に関する重要事項の審議決定、三島事業所に関する環境関連法令の制定や改正等に関する情報の提供と周知、発生した環境不適合とその是正処置報告などを行い、全活動部門で環境情報の共有化を図っています。

また、月次の環境管理委員会とは別に、半期毎に環境管理委員会を開催し、事業所の環境目的・目標の設定に関する審議決定や各活動部門で取り組んでいる環境目標の達成状況、事業所及び全社のエネルギー使用量、廃棄物発生量、外部監査結果などの活動報告と意見交換を行い、環境パフォーマンスの向上を図っています。

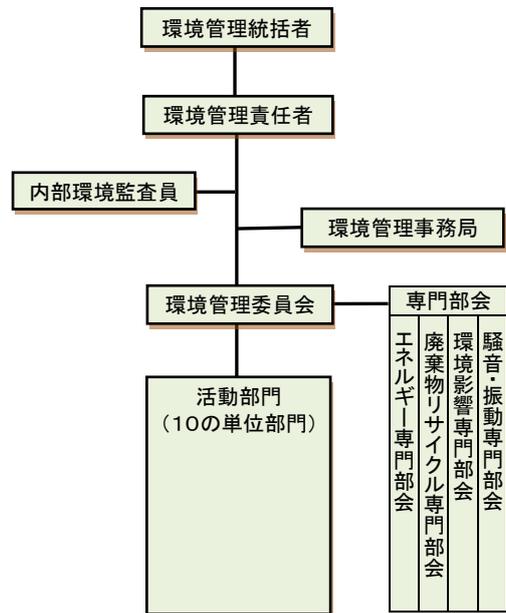
環境監査

三島事業所の環境監査は、EMS審査登録機関による外部監査と社内認定された内部環境監査員による内部監査をそれぞれ年1回実施しています。

外部監査では主に、運用しているEMSがISO14001規格に適合していること、EMSに基づいた運用がなされていること、適用される法規制等とその基準が特定されていること、発生した環境不適合に対する是正処置、予防処置が適正になされていることなどが審査されます。2010年度は第3回更新審査が行われ、指摘された事項については、全て対応処置を実施し、EMSの改善に繋がっています。

内部監査では、環境目標の達成状況、手順に従った運用管理の実施状況、法的要求事項の順守状況、教育訓練の実施状況、監査での指摘事項に対する是正処置の実施効果などを監査します。内部監査の結果は環境管理統括者に報告し、マネジメントレビューに反映することでEMSの継続的改善に繋がっています。

EMS組織体制図



環境方針

1. 地球資源の有限性を認識し、生産活動の効率を高め、省エネルギー、省資源に取組む。又、循環型社会の構築を目指して、5R (REUSE、REPAIR、REDUCE、RECYCLE、REFUSE)を推進する。
2. 環境保全に関する法令、条例及び事業所が同意したその他の要求事項等を遵守し、技術的、経済的に可能な範囲で自主管理基準を制定し、一層の環境保全に取組む。
3. 環境目的と目標を定め、定期的に見直しを行い、環境の継続的な改善を図ると共に、汚染の予防に努める。
4. 社員教育、社内広報活動等を実施し、環境方針の理解と環境に関する意識の向上を図り、全員参加で環境保全活動に取組む。
5. 環境方針を一般に公開すると共に、関係諸官庁及び住民とのコミュニケーションを図り、地域社会との共生に努める。



内部環境監査

環境教育・啓蒙

環境保全活動を推進するためには、活動にかかわる人々全員がその目的を理解し、環境保全に対する共有意識を持つことが必要不可欠です。

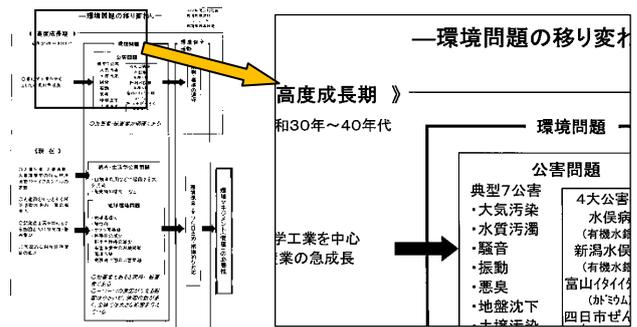
三島事業所では、従業員と構内業者全員を対象に環境教育を実施しています。毎月実施する環境教育では、三島事業所の有する著しい環境側面とそれに対する環境保全対策、適用される環境法規制の具体的内容、決められた手順を守ることの重要性、過去に発生した環境不適合の事例、廃棄物管理・危険物管理・省エネルギーへの取り組み等についてわかりやすく行い、環境問題に対する理解を深めてもらうことで、ひとりひとりの環境保全に対する意識の向上を図っています。

また、月例環境教育のほか、新入社員、中堅社員、外注業者に対する環境教育を実施しています。

このほか、作業ミスや知識不足などに起因するトラブルによる環境影響の発生を防止するため、指定作業従事者に対して、作業を遂行する力量を持たせるための力量付与教育の実施や公的資格の取得を奨励しています。

環境教育

分類	環境教育名
環境一般 (自覚教育)	月例環境教育
	新入社員環境教育
	研修生環境教育
	外注業者環境教育
	生産部中堅社員環境教育
力量	指定作業従事者教育訓練
	内部監査員教育
	廃棄物委託処理業務管理者教育



公的資格保有者数

三島事業所

資格名称	人員(人)
環境計量士	1
作業環境測定士	1
公害防止管理者(大気、水質、騒音、振動)	15
危険物取扱者(乙種2類、乙種4類、丙種)	81
特別管理産業廃棄物管理責任者	2
高圧ガス製造保安責任者	1
エックス線作業主任者	2
有機溶剤作業主任者	71
特定化学物質等作業主任者	2
石綿作業主任者	1
毒物劇物取扱責任者	1



外注業者環境教育

事故・緊急事態対応訓練

事故や地震などにより、潤滑油、有機溶剤、薬品などがこれらの保管施設や使用現場から側溝などに流出した場合の緊急事態に備え、毎年定期的に対応訓練を実施しています。

事故や緊急事態の発生の可能性のある事業所内の施設や製造工程を特定し、万が一緊急事態が発生した場合には、速やかに対応して汚染の拡大を防止し、被害を最小限に食い止めるための手順を定めています。

対応訓練は緊急事態が想定される職場ごとに行われ、訓練によって対応手順に問題が発見された場合には手順の見直しを行い、より適切な対応ができるよう改善を図っています。



事故・緊急事態対応訓練

環境負荷低減への取り組み

事業活動、製品、サービスにおける著しい環境側面(有益及び有害な環境側面)を考慮して、全部門でそれぞれ環境改善目標を設定し活動に取り組んでいます。また、環境改善活動とともに、日常の業務において環境負荷を増大させないようにするため、手順書に基づいた環境管理活動を実施しています。これらの活動によって、これまで電力や燃料などのエネルギーの低減、廃棄物の削減と有効利用の促進、ポンプや送風機等の小型・軽量化、高効率化による製品の省資源・省エネ、騒音の低減など多くの成果が得られています。

環境改善への取り組み事例

2010年度

環境改善目標	取り組みの内容・実績
照明灯の高効率化による電力使用量低減 (62000kWh/年の低減) (目標達成期限2011年度)	2006年度から工場の照明灯を高効率の照明灯に順次交換し、省エネを推進しています。2009年度までに113000kWhの削減効果が得られました。2010年度は休止しましたが、継続して電力削減に取り組んでいきます。
変圧器の高効率化による損失電力低減 (138000kWh/年の低減) (目標達成期限2011年度)	変圧器の損失電力を低減するため、省エネタイプの変圧器の導入を進めています。2007年度以降14台の変圧器を省エネタイプに更新し、目標達成を目指して取り組んでいます。2010年度までに38300kWhの削減効果が得られました。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">容量アップした試験用変圧器</div>  </div>
エアコンの高効率化による電力使用量の削減	エアコンの電力使用量を削減するため、高効率タイプのエアコンを導入する計画を進めています。
VPF用インペラの改良による高効率化 (現状より2%効率向上)	立軸斜流ポンプのインペラを改良して、ポンプの高効率化を図りました。実機による試験を実施した結果、従来機に対して効率を約4%向上させることができ、目標を達成できました。

騒音低減への取り組み

三島事業所では主力製品である大型の送風機やポンプの試運転を行う際に発生する騒音を著しい環境側面として深く認識し、これまで高圧インバータ設備の導入、工場建屋壁の二重化、高圧ポンプ・ブロウ工場の防音構造採用、ブースターポンプ建屋への防音パネル取付など、騒音低減対策を実施してきました。

2010年度は、受電容量を増やすため受電用変圧器の更新を行いました。変圧器が屋外に設置されることから、更新にあたっては騒音の少ない変圧器を採用することとしました。

騒音による近隣への環境影響を低減するため、継続して騒音低減に取り組んでいきます。



受電用変圧器 10000kVA

苦情の発生状況

2010年度は騒音に関する苦情はありませんでした。今後も、事業活動における環境保全に努め、地域の皆様とのコミュニケーションを図りながら、「苦情ゼロ」を目標に活動を推進します。

事故・緊急事態の発生状況

2010年度は事業所外への環境汚染に繋がるような事故、緊急事態の発生はありませんでした。これらの事態が発生した場合には、速やかに対応処置を実施するとともにご報告致します。

取り組みの実績

エネルギー投入量

2010年度の三島事業所の総エネルギー投入量は42800GJで、前年度より17%減少し、原単位で9%増加しました。昨年度は大型製品の試運転回数が増加したことにより総エネルギー投入量が増加しましたが、2006年度以降の総エネルギー投入量はほぼ横ばいで推移しています。

総エネルギー投入量の90%以上を電力エネルギーが占めていることから、省エネを図るためには電力の使用量を低減することが必要不可欠であり、効果的であると考えています。

2010年度は、前年度に引き続き変圧器の更新を行い、変圧器の損失電力を削減することで電力使用量の低減を図りました。

(注1) 総エネルギー投入量は三島事業所の事業活動に伴うエネルギー使用量を基に算出し、2007年度以降は電力の発熱量換算係数を9.97MJ/kWhとして算出しました。

水資源

2010年度の水使用量は9.7万m³で、前年度より20%減少しました。三島事業所では井戸水と市水を使用していますが、使用量の90%以上が井戸水です。汲み上げた井戸水の大部分はポンプの性能試験を行うための大形試験水槽に供給され、試験用水として使用されています。

大形試験水槽の水の入替え頻度を必要最小限にすることで、井戸水の使用量節減に努めています。

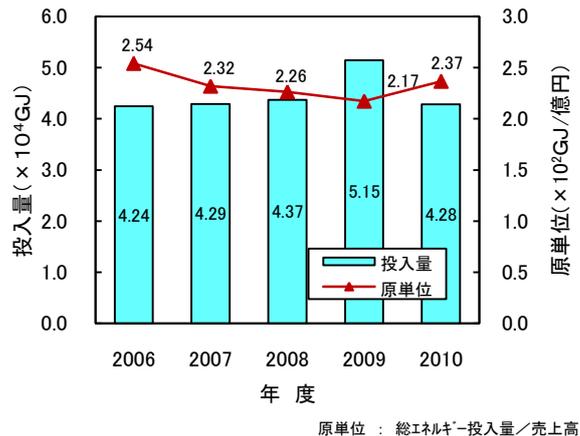
CO₂排出量

2010年度の三島事業所におけるCO₂排出量は1476トンで前年度より18%減少し、原単位では8%増加しました。事業活動に伴うCO₂排出量の大部分は電力の使用に由来しているため、電力の使用量削減に重点を置いた取り組みを進めています。たとえば、大型製品の送風機やポンプを工場を試運転する場合、回転数を定格回転数より下げて運転することで電力使用量を削減し、CO₂排出量の低減を図っています。また、電気設備、電気機器を高効率化することで電力使用量を削減し、CO₂排出量の低減を図っています。

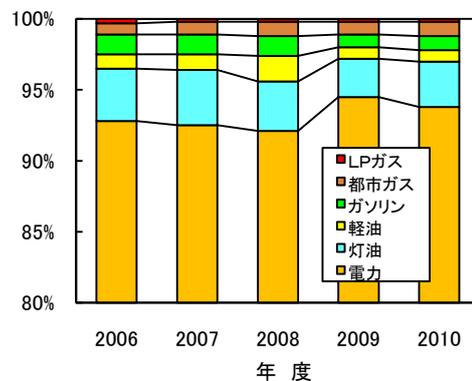
さらにこのような事業活動に伴うCO₂排出削減対策と並行して、最適化設計により製品の小型・軽量化、高効率化を図り、製品の製造エネルギーと運転電力を削減することで、製品の製造段階と使用段階におけるCO₂排出量の低減にも取り組んでいます。

(注2) CO₂排出量算出方法について
CO₂排出量は三島事業所の事業活動に伴うエネルギー使用量を基に算出しました。
CO₂排出係数は「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」に基づいています。電気の使用に伴うCO₂排出係数は国が公表する各年度の「電気事業者別排出係数」を用いました。2010年度は調整後排出係数0.000324t-CO₂/kWhを用いました。

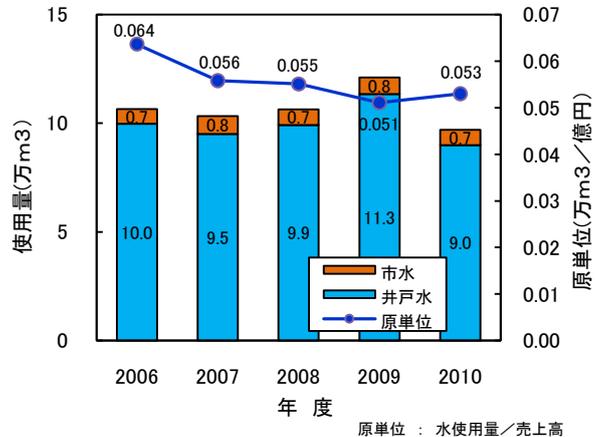
エネルギー投入量の推移



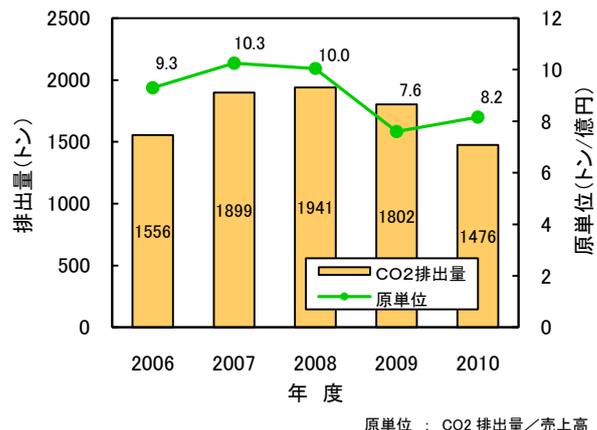
エネルギー消費に占める各エネルギーの割合



水使用量の推移



CO₂排出量の推移



取り組みの実績

廃棄物

2010年度の廃棄物排出量は332トンで前年度より32%減少しました。要因は金属くずと木くずの排出量が減少したことによるものです。また、リサイクル率は92.1%で前年度より1.0ポイント低下しました。

三島事業所で発生する主な廃棄物は金属くず、木くず、廃プラスチック、紙くず、汚泥、廃油などですが、2010年度は排出量全体の64%が金属くずでした。金属くずは鉄、ステンレス、アルミニウム、銅などの材質ごとに分別し、大部分がリサイクル原料として回収されています。

紙くずはマテリアルリサイクル用紙くずとサーマルリサイクル用紙くずに分別して回収し、サーマルリサイクル用紙くずは固形燃料(RPF)用の原料として有効利用されています。

(注3) 金属くず(リサイクル)と非水溶性廃油は有価物として売却しており廃棄物に該当しません。過去のデータと連続性をもたせるため、ここでは廃棄物に含めて集計しています。

VOC

三島事業所におけるVOCの大部分はトルエンとキシレンで、これらのほとんどは製品の塗装工程で使用する塗料やシンナーに含まれるものです。

2010年度のVOC(PRTR対象物質)の大気への排出量は16.8トンで、前年度より23%減少しましたが、これは製品出荷量が影響しているものと考えられます。

VOCの排出を抑制するため、洗浄工程の一部をシンナー洗浄から高压温水洗浄に変更し、また被塗装物の形状や大きさに応じたスプレーガンを使用して塗着効率を向上させることにより塗料やシンナーの使用量を削減しています。さらに強溶剤形塗料から低VOCの弱溶剤形塗料への一部切り替えを行うなどの対策を実施し、VOCの排出抑制を図っています。

(注4) PRTR : 化学物質排出把握管理促進法

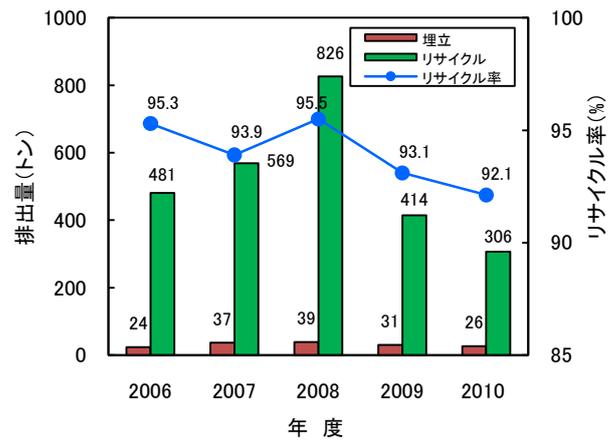
(注5) VOC : 揮発性有機化合物

排水

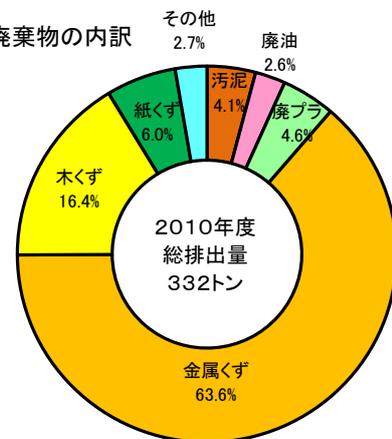
三島事業所から公共用水域及び下水道に排出される排水を管理しています。公共用水域に排出される排水については、処理施設の日常点検と毎月定期的に水質検査を実施し、異常がないことを確認しています。また、pHについては24時間連続測定による監視を行っています。

下水道に排出される排水についても、毎月定期的に水質検査を実施して水質の監視を行っています。

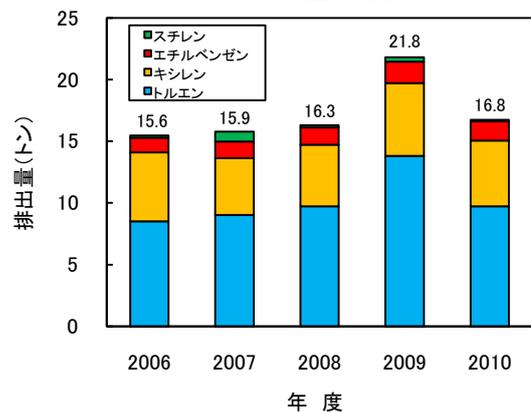
廃棄物排出量の推移



廃棄物の内訳



VOC排出量の推移



公共用水域への排水

(2010.4~2011.3)

項目	基準値	実績	平均
pH	5.8~8.6	7.6~8.4	8.1
SS	150	1未満~3	1
BOD	120	1未満~2	1未満
油分	5	2未満	2未満
銅	3	0.01未満	0.01未満
亜鉛	2	0.03~0.30	0.12
全クロム	2	0.02未満	0.02未満
溶解性鉄	10	0.03未満~0.12	0.05
溶解性マンガ	10	0.02未満~0.02	0.02未満

単位 : pH以外はmg/l

三島事業所における環境保全への取り組みを環境経営に反映し、環境保全活動をより効果的に推進するとともに、外部のステークホルダーの方々とのコミュニケーションを促進するため、環境会計を導入しています。環境会計は環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考にしました。

対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日

集計範囲：(株)電業社機械製作所 三島事業所

2010年度は、受電用変圧器、試験用変圧器の大容量化や変圧器の損失電力を低減して省エネを図るため、電気設備の更新を積極的に進めた結果、地球環境保全コストの投資額が増加し、総投資額が前年度より増加しました。また、総費用額も前年度より増加しました。

環境保全対策に伴う経済効果については、変圧器の省エネ対策により得られた実質経済効果と有価物の売却による収益を合わせ、632万円の経済効果が得られました。

—環境保全コスト—

単位：万円

分類		2010年度の取組内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト	—	0 (1,510)	1,256 (1,223)
	地球環境保全コスト	受電用変圧器、試験用変圧器などの更新	6,200 (210)	332 (304)
	資源循環コスト	廃棄物処理など	0 (0)	725 (846)
管理活動コスト		EMS運用、環境報告書作成、環境教育など	0 (0)	668 (643)
研究開発コスト		製品(ポンプ・送風機)の省エネ化、低騒音化、エネルギー回収装置などの研究開発	0 (0)	8,816 (5,917)
社会活動コスト		環境保全団体等への寄付など	0 (0)	690 (51)
環境損傷対応コスト		—	0 (0)	0 (0)
合計		—	6,200 (1,720)	12,487 (8,984)

※1 費用額は人件費、減価償却費を含みます。

()は2009年度実績

※2 上・下流コストは算出していません。

—環境保全対策に伴う経済効果—

単位：万円

項目	経済効果
変圧器の更新による省エネに伴う節減経費	13
有価物の売却による収益	619

※3 省エネに伴う節減経費は、電力使用量の削減量を基に実質経済効果を算出しました。

※4 有価物の売却による収益は、金属くずと廃油の売却によるものです。

安全管理

事業活動を行う上で安全管理は最優先で取り組むべき重要課題であり、安全の確保は事業活動の基本でもありません。三島事業所では、安全管理の基本方針に“目指そう「災害ゼロ」から「危険ゼロ」”を掲げ、活動を推進しています。

毎月開催される安全衛生管理委員会では、職場で発生した災害・ヒヤリの状況とその原因、防止対策について報告が行われ、全職場に周知することで再発防止を図っています。また、過去に発生した災害・ヒヤリ事例について定期的に報告を行うことで、過去の災害・ヒヤリに対する記憶の風化を防止しています。

毎月実施している安全パトロールでは、職場の3Sに重点をおきながら、不安全行為の撲滅と作業環境の改善を図り、安全の確保に取り組んでいます。

衛生管理

毎年10月に実施される全国労働衛生週間には、産業医や看護師を講師に招き、メンタルヘルスや生活習慣病予防などの健康講演や健康・衛生相談などを行い、従業員に対する健康管理や衛生管理を指導しています。

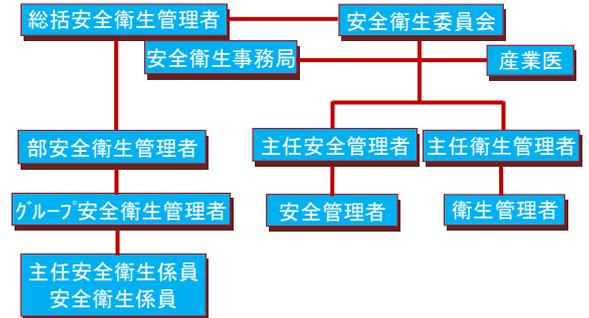
平成22年度に実施した衛生週間行事の一例として、特定保健指導に該当しないようにするための指導があります。これは健康診断の結果から現在の自分の健康状態を把握し、症状から予測される病気に対する危険予知と対策を考え、自ら健康管理を実施していく取り組みです。危険予知をすることによって予測される病気の怖さを知り、病気に対する危機感を持つことで、日頃の生活習慣を見直す良い機会となります。

防災管理

三島事業所では、火災、風水害、地震のそれぞれの災害形態に対応した対策組織を確立し、災害に備えています。とくに近い将来発生することが高い確率で予想されている東海地震に備えるため、毎年総合防災訓練を実施しています。総合防災訓練では、地震発生時の30秒前の避難行動訓練、避難誘導訓練、消火訓練、救護訓練、指示伝達訓練などを行い、これらの訓練を通じて見出された問題点などを改善し、より実効性の高い防災対策の確立に取り組んでいます。

毎年、三島市防火協会の主催で行われる「消火器消火競技・屋内消火栓操法大会」に参加し、消火設備の取り扱いと消火操作の技能向上を図っています。平成22年度に開催された第7回大会には三島事業所から4チームが参加し、「消火器消火競技」の部で優勝することができました。

安全衛生管理組織



救護セミナー



健康講演



総合防災訓練



消火器消火競技・屋内消火栓操法大会

社会貢献

当社は、平成20年度に4つの柱からなる“社会貢献方針”を制定し、社会貢献活動を推進しています。

経営資源の活用

地域社会との共生

社会貢献方針

社会の発展と文化の向上

社員の活動

～大場川堤防の清掃活動～

毎年、三島地区環境保全推進協議会主催による大場川清掃奉仕活動に参加しています。今回は9月25日に実施され、秋晴れの中、雪沢橋～新町橋～月見橋間の堤防の清掃を行い、総量で約110kgのごみが回収されました。

～せせらぎルート清掃活動～

毎年、6月の環境月間に行われるせせらぎルート清掃活動に参加しています。今回は6月5日に実施され、三島駅から三島市役所までの歩道や道路端に落ちているごみを拾って歩き、総量で約100kgのごみが回収されました。

環境美化活動

～桜川の清掃活動～

毎年、5月に行われる「三島の川をきれいにする奉仕活動」に参加しています。三島市の各種団体が参加するボランティア活動で、当事業所は桜川の清掃活動に参加しています。今回は5月9日に実施され、河川に堆積した汚泥やごみなどを除去する力のいる作業に汗を流しました。

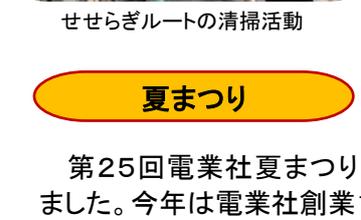
年度	参加人数 (人)
2006	32
2007	52
2008	71
2009	57
2010	76



大場川堤防の清掃活動



桜川の清掃活動



せせらぎルートの清掃活動

被災地への支援

東日本大地震の翌日から被災地への支援活動を始めました。事故のあった福島第一原発へ仮設用の水中ポンプを緊急に送るなど、20数台のポンプを現地へ納入しました。被害を受けた多くの発電所の復旧に向けて現地点検や部品の提供など、全面的な協力を行っています。

また、岩手県、宮城県、福島県、仙台市に災害復旧や復興事業の支援として寄付金を贈りました。

DMW社会貢献基金

DMW社会貢献基金は従業員の毎月の給与の一部を積み立て、地震や風水害等による被災地への義援金や近隣地域の助成金として役立てています。平成22年度は、鹿児島県奄美地方で発生した集中豪雨による被災に対して義援金20万円を贈りました。また、地域福祉のため三島市社会福祉へ20万円を寄付しました。この寄付は三島市社会福祉協議会を通じて、心身障害者小規模授産所の運営資金や施設設備費用に充てられます。



DMW社会貢献基金

夏まつり

第25回電業社夏まつりが8月6日に開催されました。今年は電業社創業100周年となる記念の年でもあり、例年を遥かに凌ぐ大勢の人々が来場されました。子供会によるしゃぎりの競演で祭りの雰囲気盛り上がったところで、オープニングセレモニーが行われました。夏祭り会場ではバンド演奏、大道芸、大抽選会などが行われ、大盛況のうちに終了しました。夏まつりは従業員やその家族、近隣住民の皆様との大切なコミュニケーションの場となっています。

創業100周年を記念して、夏まつりでの売上金の一部を「三島市ふるさとの緑保全基金」に寄付しました。



夏まつり

RO法海水淡水化用高圧ポンプ

海水に高い圧力をかけて海水を淡水化するRO法(逆浸透法)に最適な高圧ポンプで、長年の実績と最新設計により世界最高水準の高効率化を実現しました。高効率化は動力エネルギーの消費低減に繋がるもので、CO₂排出量の削減にも寄与します。

《特長》

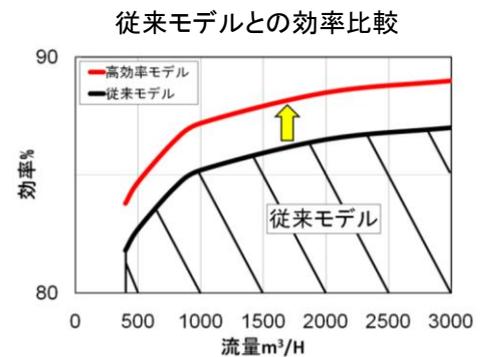
- ◆世界最高水準の高効率化によるランニングコスト低減
- ◆コンパクト設計による軽量化
- ◆メンテナンス性に優れた水平ニツ割構造



シリーズ段モデル



初段モデル



プランジャポンプ

このプランジャポンプは一般工業用、石油化学用、デスケーリング用などに使用され、吐出し量10~2000L/min、吐出し圧力5~70MPaの広範囲の使用条件に適用できます。使用流量が小流量で遠心ポンプではポンプ効率が期待できない場合でも、88~90%以上の高いポンプ効率が得られるので電力使用量の削減が図れます。

《特長》

- ◆API674規格に準拠した高圧往復動形(容積形)ポンプで、ポンプ効率が高く省エネルギー
- ◆減速機が内蔵されており別置きが減速機が不要なため、省スペース
- ◆ポンプの吸込側・吐出側に脈動低減装置を取付けることにより容積式ポンプ特有の脈動を低減



コンデンセートポンプ



インジェクションポンプ

Open up the future
～新しい風が未来を切り開く～

